

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100748		
法人名	セントケア和歌山株式会社		
事業所名(ユニット名)	セントケアホーム城北(2階)		
所在地	和歌山県和歌山市東布経丁3-6		
自己評価作成日	平成30年1月23日	評価結果市町村受理日	平成30年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成30年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを大切に、地域との交流を定期的に行い、お客様が中心となられ「生きがい」を感じていただき、お客様の出来る事、したい事、好きなことに寄り添いながら、地域に密着した風通しの良い開放されたものをご提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの活動において、すべての職員が入居者をお客様と位置づけ、「お客様にとってどうか」との視点を堅持しながら、入居者一人ひとりの日々の暮らしを支えている。健康管理や医療面では、訪問看護ステーションの利用により、かかりつけ医との連携がより密となっており、入居者は不安なく過ごせている。家族等にとっても安心のできる体制にあると言える。地域との連携については、同種の他の事業所との合同避難訓練等の実施や婦人会との交流等が行われているが、今後は自治会等とのつながりを強め、地域との連携の幅をより広げたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて事業所理念の唱和を行い、理念の共有に努めている。	会社設立時に策定した理念を基本としながらも、個々の職員の意見や思いを集約し、具体化した年度毎の目標を設定することで、管理者と職員の理念の共有と実践がより深まっており、地域の中での入居者の生活を支える力の源となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のお店にお客様と一緒にの出掛けたり近くを散歩する中で声を掛け合ったり、また近隣の催しものに参加する等を行っている。また地域での防災活動を行っている。	買い物等での外出以外にも、移動スーパーや美容院の利用、ゴミ出し等の際に地域の方々との交流は日常的である。またホームが催す夏祭りは、事前に近隣にお知らせをすることで、地域交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域ケア会議等を通して時には事例や提案を行い発信している。認知症の研修会も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームでの取り組みをご報告し、意見を頂いている。	運営推進会議には、入居者・家族等・同種のホーム職員・行政職員等の出席があり、ホームの現況や評価への取組、地域の情報等について報告や話し合いを行い、そこでの意見や情報を運営に反映させ、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターのご担当者様とは頻回にお会いし、取組をご報告している。	地域包括支援センター担当者とは運営推進会議の他日頃から連絡を密に取り、情報交換を行っている。また市の担当者のもとには運営に関する相談等で直接出かけており、ホームの取組を積極的に伝えるよい機会であるととらえ、双方向の協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回「虐待研修」を実施し、虐待とは何か。不適切なケア、グレーゾーンと言われる行為も含めて周知している。	ホーム内研修及び外部研修を通して、代表者及びすべての職員は拘束となる具体的な行為を正しく理解しているが、言葉による拘束や安全確保の為の行動の制限は生じやすいことも十分に認識しながら、入居者にとって抑圧感のない、安全な暮らしが続けられるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回「虐待研修」を実施し、虐待とは何か。不適切なケア、グレーゾーンと言われる行為も含めて周知している。権利擁護研修も受けており営業所で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されているお客様が1名。その方にも運営推進会議にご参加いただき学ぶ機会を持っている。権利擁護研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に理解いただけるよう、口頭と書面をもって、丁寧に説明している。随時、要望、疑問が無いか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご意見を伺う。電話や来訪時に聞き取り。年1回のお客様満足度調査の実施。内容を会社、スタッフと共有している。	入居者・家族等からの直接の聞き取り及び満足度調査から得られた意見・要望を率直に受け止め、職員間での検討を経て運営に反映させている。外部者への意見・要望の表明は、運営推進会議に加え行政等の窓口にも可能である旨を文書で明示し、契約時等に説明することで周知を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを実施し、スタッフの意見、提案を聞く機会を設けている。お客様のご要望に応える事が出来るよう随時、意見や提案を確認し実現に努めている。	定期又は必要に応じて随時行われる職員との個人面談は代表者が職員の意見・提案を聞く場ともなっており、会議以外でも代表者や管理者が職員の意見・提案を聞く機会は多い。ホームの運営や物品の購入等に意見・提案が活かされ、一例として服薬を確実なものとする服薬ロボットの開発・購入がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を実施し、各自の目標、課題を確認共有している。研修計画を策定し各自の研修、受講管理にて確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を策定し、研修の実施。スキルに応じ、有料研修の受講も会社負担で実施している。法人外の研修案内も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会の参加や、会議の参加により情報を交換を行っている。講演会にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際には、ご本人様と事前に面会させていただきお話を伺う機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に不安やご要望、疑問点を聞き取りし関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談時にお客様のお困りごと、ニーズを把握し各サービスを含めたご案内を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様とのコミュニケーションを重視し今の想いを理解しケアに繋げるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外にも、ご本人様のご様子を頻繁にご報告している。面会や外出などご家族との時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来てくださったり、またこちらから集まりに参加していただいている。	携帯電話やホームの電話を利用しての家族等とのやり取りし、手紙での近況報告等がなされており、行き慣れた理髪店や美容院の定期的利用もある。また婦人会の集まりへの参加や正月の外泊等も実現している。職員は積極的に働きかけながら馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、お客様どうしの関係性の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	各関係施設との連携を行い必要に応じ相談や援助、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、ご意見、ご意向を把握している 。また把握が困難な場合には、「お客様第一主義」を徹底している。	これまでの暮らしぶりをまとめたホーム独自のメモリーブックの作成及び今の生活の中での本人の言動の観察を通して、入居者一人ひとりの暮らし方への思いや意向の把握に努めており、困難な場合も本人の視点に立つことで得られる日々の気づきをすべての職員が共有し、検討を重ねながら介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居の際に、メモリーブックを記入していただき今までの暮らしを把握している。また面会時にご家族様会話の中からお聞きすることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	メモリーブックや、ご家族様、ご本人様から情報収集を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケアカンファレンスを行い、ご本人様のお困りごとや希望、ご家族様のお気持ちに寄り添える介護計画を作成している。	本人・家族等からの聞き取りや職員間での検討から抽出した課題や道すじを、かかりつけ医・看護師等の関係者も出席する会議の場で話し合い、それぞれの意見やアイデアを組み入れた介護計画を作成し、必要に応じて見直しを行いながら現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と日々の記録が繋がるように努めスタッフ間で情報が収集できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるサービスについて様々な方向から考え、他職種連携を図り家族様とも検討し、支援できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握しお客様一人一人に応じ今までの暮らしをできる限り継続できる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医に、ご入居後も診察していただけるよう支援している。	緊急時の対応及び往診が可能であることから、ホームの提携医がかかりつけ医となる場合が多いが、あくまでも本人・家族等の選択である。通院は基本的に職員が同行し、情報の提供は文書又は口頭によっている。同一法人内の訪問看護ステーションとの医療連携により、入居者が適切な医療を受けることができる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携の契約を行い、週1回の訪問、また必要時に相談できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は頻繁にお見舞いに伺い、状態の把握に努めている。普段から連携室との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約の際に、グループホームの看取りについてご説明している。また、重度化した場合は、再度ご説明し関係機関とカンファレンスに取り組んでいる。	入居者の重度化は現に進みつつあり、かかりつけ医・看護師等の関係者とチームで支援を続けているところである。看取りについては、本人・家族等の希望に添いながら実施できる体制を整えている。今年度には一名の入居者の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回急変時の対応について研修を行い順次消防署での講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練の実施。運営推進会議や地域活動の中で交流を図り協力体制を築いている。	3回の訓練の内1回は近隣の同種のホームと合同してのものであり、年1回は消防が立ち会い指導を受けている。昼間及び夜間を想定し入居者と職員が一緒に行動しての訓練である。災害時に必要とされる物品を備蓄し、定期に点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人格を尊重し、押し付けにならないよう、ご本人様の意志を主体とし、排泄、入浴などは、同性介助を心がけている。マナー研修にも参加している。	呼称は姓による言葉かけを原則としているが、入居者の受け入れ状況により柔軟に対応している。その場合には人格の尊重を最優先し、家族等の承諾を得ている。個人情報 は口外せず、文書等は鍵のかかる保管庫に納める等責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がご自身の思いや希望を表すことが出来る環境づくりに努めている。計画作成は、アセスメント、モニタリングを行い、ご本人の想いに聞かせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースを大切にし、入浴時間やお食事等その日の体調や気分、ご希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容の訪問でカットして頂いたり、ご希望で近所の理髪店、美容院に行っていたりしている。お化粧品や洋服もご自身で決められるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	五感を感じていただきながら、残存機能を活かして頂き、自立支援に向けた支援を心掛けている。	メニューは法人本社から送られ、専門の職員が調理を行うが、入居者は盛りつけ・テーブル拭き・後始末等に参加して持てる力を発揮している。食レクと銘打って、月数回入居者の好みのものを一緒につくったり、外食に出かけており、折々の誕生祝い用のケーキづくりは大好評である。菜園で育てたプチトマトが食卓に並ぶこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれたメニューとカロリー計算された食事が本社より配信されており、お客様の食事形態に配慮している。また水分量の確保が出来るよう摂取量の状況をスタッフ間で共有している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行いご本人の状態に応じた器具を使用し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、お声かけにてトイレでの排泄介助を行っている。	チェック表等を参考に入居者一人ひとりの排泄パターンを把握すると共に、サインを見逃さず、さりげなくトイレに誘導することでの排泄支援を基本としている。自立した入居者をお手本に、入居者の力を引き出しながら、排泄の自立を見据えた支援を続けており、その途上にあると言える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には、ヨーグルトやバナナを提供し、水分量の確保に努めている。ミルクの提供も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様のペースを大切に、入浴時間は、ご希望に添える様に支援している。	週2～3回の入浴を目安としているが制限はない。季節湯の実施や入浴剤の利用が入浴の楽しさを倍加させている。声をかける職員を代える、時間をずらして再度声かけをする等の工夫により継続的な入浴の拒否は見られない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の身体状況や体調に合わせて休息の出来るようにし、夜間眠れない時には傾聴し、ホットミルク等を提供させていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ロボットの使用で誤薬を防止している、ファイルで薬の確認を行い、臨時薬については配薬ケースにて個別で管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様とご一緒に洗濯、掃除など、お手伝いしていただいたり、又ドライブや買い物に出かけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外食、演劇鑑賞などご本人様の希望を出来る限り反映できる様努めている。	雨の日や寒い時期を除き、テラスに椅子を持ち出しての日光浴は日常茶飯である。ドライブや外食はもとより、全員で大衆演劇の鑑賞にも出かけている。また入居者の希望で行き先を決め、家族等も同伴しての日帰りバス旅行をほぼ毎年実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様のご希望に添いお金を所持されている。支払などの際は出来るだけご自身で出来るよう支援している。異動スーパーに来ていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯や事務所の電話を通してご家族様と連絡を取られています。また、お手紙をご一緒に書くこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた色で空間を統一しています。暖かい日には日光を取り入れ、五感で季節を感じていただいています。アロマ、音楽を取り入れ、日光浴をしている。	共用空間の五感刺激には十分な配慮がなされており、今の季節に合わせて加湿器が備えられ、壁には節分の飾りつけがされる等整えられた暮らしの場で入居者は思い思いに居心地よく過ごすことができる。程よく配置されたソファで寛ぐ様子や洗濯物たたみに勤しむ姿は、生活感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配席を考慮し、お客様のお気持ち表情を見せていただき関係性を大切にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや、ご家族との写真などご本人様の親しみのあるものを置き、居心地の良い空間になる様努めている。	自宅との違いから生じる不安やダメージをできるだけ小さくし、その人らしく安心して過ごせる部屋とするために、仏壇等の持ち込みもある。居室は内側からの施錠も可能であり、職員が居室を訪れる際には、声かけ及びノックを必ず行う等プライバシーの確保を徹底している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	真の喜びとは、ご自身での役割を持って自立に向けた生活が出来る事である事を認識し自立支援に向けた環境が提供できるよう努めている。		